

(様式 1-2)

調査研究 中間報告書

平成 25 年 7 月 30 日作成

研究者 (所属・氏名) : 管理室 酒井忠彰

研究課題名 (継 続)	県内スギ・ヒノキ花粉の飛散予測および情報提供に関する研究			コードNO. 中間ⅡB-1
共同研究者 (担当分野)	花粉情報提供システム推進チーム (所内: 泉 宏導、山本 希、芦田澄江、五十嵐麻衣、谷口佳文、川村恭平、中村大充 協力機関: 二州健康福祉センター衛生検査課)			
研究期間	平成 24 年度から 26 年度まで (3年間) (本報告対象期間: 24 年度まで)			
研究予算 見込額 (千円)	全体	24年度	25年度	26年度以降
	90	30	30	30
研究目的 および 必要性	全国でスギ・ヒノキ花粉による花粉症は依然増加傾向にあるとされている。当センターにて実施してきたこれまでの花粉観測結果を生かす形で、県内における花粉飛散の予測情報を県民に提供することにより、県民の花粉症対策を促進する。			
進捗状況	スギ花粉の予測モデルの構築および予報情報の提供実施			
研究内容 および これまでの 成果	<p>①花粉飛散データおよび気象データからスギ花粉の飛散予測モデルを構築</p> <ul style="list-style-type: none">・解析データ 当所観測データ (調査地点: 福井市、敦賀市 / 解析対象年: H19~24 年)・構築モデル 解析結果を踏まえて次のモデルを設定 飛散開始日: 次の関係から予測 (ア)日最高気温の累積温度による予測 (イ)急激な気温上昇日による予測 (ロ)日飛散数: (ア)最高気温の累積温度 (T) と飛散数積算値 (Y) との関係近似式 $[Y=Y0 \times \exp(a \cdot \exp(b \cdot T))]$ (ハ)多重回帰解析より求めた気象条件による補正式 [(ア)の飛散数を降雨、日照時間、風向の条件から補正] <p>・モデルによる再現性評価 日飛散数 (4段階評価) の適合率 約6割</p> <p>② 平成 25 年シーズンにスギ花粉の予測情報を試行提供</p> <p>③ 花粉飛散状況の観測結果と予報との整合確認</p> <ul style="list-style-type: none">・飛散開始日: ①(イ)により予測→予測日での飛散開始を確認・飛散数 (4段階評価): シーズン中の適合率約8割 <p>④情報提供内容等の検討 ホームページのリニューアルを実施</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> ・予報情報の提供開始 ・過去飛散状況の分析内容を新たに提供 ・デザインの変更などを実施 携帯電話用の情報提供開始（飛散情報）				
本年度の計画	①25年シーズンの測定結果の整理と予測の関係を分析 ②モデルの見直し実施（総飛散量の予測を含む） ③ヒノキの予測モデルの検討 ④26年シーズンの予報実施 ⑤スギ・ヒノキ花粉シーズン以外の花粉飛散状況把握に向けた検討（簡易観測手法の検討）				
研究の特色	環境省等の観測情報には、スギ・ヒノキの花粉種別の飛散状況データはない。また、気象条件・飛散状況が嶺北と異なる嶺南地域の観測は環境省等において実施されていない。こうした観測的特徴を生かし予測モデルの構築・情報提供を行う。				
期待される成果	1. 県民生活や産業社会への波及効果 花粉種に応じた予測情報の提供を行い、県民の花粉症対策の促進を図る。 2. 業務遂行のレベルアップへの寄与等 情報収集、解析手法および情報提供手法の能力アップにつながる。				
本年度の所要経費（概算）	1. 報償費	千円	4. 使用料および賃借料	千円	合計 千円
	2. 旅費	千円	5. 備品購入費	千円	
	3. 需用費	30千円	6. その他	千円	
外部（県民等）への効果的な発信実績（予定可）	題名 花粉情報提供システム 飛散開始 エコーメイト	発信媒体、方法等 ホームページ 新聞 ラジオ		発信年月 リニューアル H25.2.27 H25.2.27 H25.3.11	
備考	研究期間を25年シーズンのみとしていたが、25年シーズンの予測結果を踏まえモデルを見直しさらにこのモデル等再検証を行う。また、通年の花粉飛散状況の把握手法の検討を行う。このため、研究期間を24・25年度から24～26年度に変更する。				